

科目名	生涯学習論特講	担当者	コガ 古賀 トオル 徹	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座（生涯学習論特講）では、生涯学習社会を迎える現在において、「教育」（学習）をどのようにとらえ、学習活動をどのように企画・構想し展開していくことができるのかを考えることを主要な「問い」とする。その様々な問題解決のために必要とされる専門的知識や基礎理論を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>(1)学修で習得した知識・技能を、生涯学習社会における様々な課題の解決に活用・適用することができる。</p> <p>(2)仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的・批判的な考察を通じて、課題を精査し、具体的な解決策を構想し提案することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 現代社会における「生涯学習」の意義や特質を理解する。（知識・理解） 諸外国や歴史の文書、各種統計データを読み取り、活用する研究技能を身につける。（思考/技能）</p> <p>【行動目標（SBOs）】 (1)「教育学」の考え方、研究方法の特徴を理解し説明することができる。（知識・解釈） (2)「生涯学習社会の到来と課題」について説明することができる。（知識・解釈） (3)「生涯学び続ける力」を修得させることを目的として、学校教育改革が進められていることとの関連性を理解し課題を抽出し解決策を形成・提案できる。（知識・問題解決） (4)現場の取材を行い、質問事項等を考え、リサーチクエスチョンにつなげていくことができる。（技能 / 態度）</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 レポートで完結するが、自主的な意欲をもとにする「生涯学習の実践現場」を考察の対象とし、また取材を実施すること（フィールド・ワーク）と、それをレポートとして構成し、提出する作業（修正等の往復も含む）は、能動的であり、「主体的な学び」・「対話的な学び」・「深い学び」となる。レポートの往復（manaba folio）において、「読者」の存在を意識した論述の表現力や作法を身につけることができる。メールやmanaba folio上での質問も受け付けている。</p> <p>【学修方略（LS）と学修時間】 レポートの作成（そのための取材、資料収集と整理、構想と推敲から論文提出と、さらに修正）。関連する文献や情報を集め理解するために25時間以上、提出時のレポート往復（レポート指導・再提出のやりとり）に20時間以上を目安としている。〔最低45時間の学修時間を要するものとする〕</p>		
スケジュール	<p>レポートは前期（9月）・後期（1月）と提出期限が設定されている。</p> <p>「基本教材1」「基本教材2」とともに締切より一ヶ月前までに初稿を提出すること。</p> <p>manaba folio上の添付で往復をすることで、完成稿へと進んでいくことになる。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題レポートを重視する。教材1(1)については教材の理解度を評価する。(2)については報告書の具体性を評価する。教材2については、主張される内容（理論）の理解度で評価する。課題未提出の場合は評価を行わない。
	観察記録	20%	レポート添削への対応や往復による学修。
履修者への要望	<p>前提として、どのような「教育」「学習」がいま求められているのか、これまではどのようなものが求められてきたのかという教育観・学習観を理解しておいていただきたい。「教育とはこういうものだ」と誰もが漠然と語ることはできるが、その教育実践を生み出した理論や歴史を深く知っておくことで、その議論は“漠然”としたものではなく深まっていく。教材①は教育学全般を理解することに役立つ構成となっている。そこに登場する人物像や概要を調べて理解を深め、理論等の用語を操ることができるレベルへ向上していただきたい。また、関連することとして、「発達」「教育」「教授」「学習」といった言葉の意味を調べ、文字に分解しての語義や、翻訳前の原語、あるいはさらなる他国言語での表現などを調べていくなど、自らの興味を深める活動、知識の幅を広げる活動をしていただきたい。そういった活動自体が「学習」や「発達」と重なってくると考えている。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 勝野正章・庄井良信 教材名： 『問いからはじめる教育学』（有斐閣ストゥディア，2015年） ISBN:978-4-641-15014-0 1,800円+税
	この教材は、「教育学」全般について、基礎から学ぶ人のためにと編まれたテキストである。生涯学習に限定しての専門書ではなく、その意味では、やや初歩的な内容となっているが、本講義で構想する「学校教育と生涯学習とをネットワーク的に理解する教育学的な視点」という学びのためには十分に意義がある。生涯学習については、後半の第12章が該当するが、前半で「教育観」や「教育の歴史」、「（学校で）学ぶことの意味」がわかりやすく説明されている。この部分を受けて「学校教育の外の学習」である「生涯学習」や「社会教育」について、より考え深めることができる構成となっている。この教材の「構成」自体が本講義のねらいと合致するので、より広い学びのために読み進めていただきたい。
参考図書	麻生誠・堀薫夫『生涯学習と自己実現』（放送大学教育振興会，2002年） ISBN:978-4-59-511360-4
履修上のポイント	リポート課題(1)では、教材の内容をよく読み、いま求められる「学び」（学習）とはどういうものであるのかについて理解を深めること。参考図書にあげたもの以外でも入門書的なものを選択して読み、比較考察するとさらに学び深めることができる。 リポート課題(2)では、“書いてあること”の実践をみることで再確認と、実践をみることで感じとることのできる課題（解決すべき問題点）を意識してもらうことをねらいとしている。
レポート課題 1	教材の第12章を中心によく読み、生涯学習の理念を説明し、これからの学びの在り方について論じなさい。テキストの前半部分に記される「教育とは何か」という問い（教育学全般に関する記述）も理解した上で、「生涯学習」の意義や位置付けをおさえて論述すること。また「学習で身につける」ということに関する自分の考え（コメント）も記してください。 留意点： 教材の論述内容をよく読んで、学習者の習得する力をどうとらえようとしているのか、著者の主張・示唆をまとめること。
レポート課題 2	実際の「生涯学習」の場（博物館・美術館・生涯学習センター・市民活動支援センター等）を訪問して、そこでどのようなことが目指され、何を求めて参加者が集まり、どのような学習が行なわれているか等、見てきたことを報告してください。 留意点： ここでの活動は、“実践の場”を取材することでフィールド調査やインタビュー調査の方法を習得することを目的としています（取材場所は一か所でも複数でもよい、複雑な手続きや許可が必要となるような場は避け、一般的な市民活動の場となる施設等がよい）。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 渡部淳 教材名： 『アクティブ・ラーニングとは何か』（岩波新書，2020年） ISBN:978-4-00-431823-1 800円+税
	新しい学習指導要領（中学校で2021年度より開始）は「学び方改革」として「アクティブ・ラーニング」がその柱となっている。これは「自立的学習者」「自律的市民」の育成を目指すものである。新指導要領の目標は「学びに向かう力」として生涯学び続ける意欲や態度を養うものとされ、生涯学習の観点から学校教育を捉え直したものとみえる。「学び」とは何であるのかを問い直すために、その基本的著作として読んでいただきたい。
参考図書	本田由紀『教育は何を評価してきたのか』（岩波新書，2020年） ISBN:978-4-00-431829-3 840円+税
履修上のポイント	「アクティブ・ラーニング」は現在の「学び方改革」の中心となっている。この改革は1990年代から本格的に推進されてきていて、「総合的な学習の時間」や「言語活動の充実」の導入により始まる。この時代は「生涯学習時代の到来」が宣言される時期とも重なる。さらには欧米の PISA 型学力等、国際規模での影響も大きい。時代的変遷や国際的背景を整理することで、読者である私たちは「生涯学習社会」あるいは「知識基盤型社会」を包括的な視点で捉え直すことが可能となると考えている。
レポート課題 1	教材の全体を読み、特に第1～2章（1～68ページ）に記されたアクティブ・ラーニングが必要とされた理由、求められた理由についてまとめなさい。その導入を後押しした時代的変遷や国際的背景を整理することがねらいです。自身の考えや他の文献から学んだ成果を反映させてください。 留意点： 課題に則していれば他の参考文献類から学んだものを示してもよい。
レポート課題 2	第3～5章（69～194ページ）には、アクティブ・ラーニングの手法や定着の条件が記されている。この学習方法の導入において、何が難しいとされるのか。それを定着させることで「生涯学習」にどのように寄与することが可能なのか。読者として読み取ったことに自分の考えを加えてまとめなさい。 留意点： 課題に則していれば他の参考文献類から学んだものを示してもよい。

基本教材 1

第 1 回	教材の理解①：「教育学」とは何か、「教育」とは何か
第 2 回	教材の理解②：人間の成長・発達と教育との関係性
第 3 回	教材の理解③：学校教育と社会教育・生涯学習
第 4 回	教材の学修（課題①）：「生涯学習」の意義，位置づけ
第 5 回	レポート課題 1 について構想をまとめる，初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1 の推敲，修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1 について最終稿をまとめる
第 8 回	教材の解釈と取材活動①：取材計画の構想，取材対象を設定する
第 9 回	教材の解釈と取材活動②：取材対象に対する取材方法・内容を決めて予備調査・資料集めを行う
第 10 回	教材の解釈と取材活動③：取材実施・資料収集・記録，及び分析を行う
第 11 回	取材結果の分析と報告書における表現の工夫を行う
第 12 回	レポート課題 2 について初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2 について推敲，修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2 について最終稿をまとめる
第 15 回	レポート 1・2 を見直し，生涯学習の理解（理論と実践）を深める

基本教材 2

第 1 回	教材の理解①：課題の理解
第 2 回	教材の理解②：「はじめに」「第 1 章」を読み，国際的背景を整理する
第 3 回	教材の理解③：「第 2 章」を読み，時代背景や問題点を整理する
第 4 回	資料データの理解（教材以外のデータも参照してデータの読み取り方，表現方法を学ぶ）
第 5 回	レポート課題 1 について構想をまとめる，初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1 の推敲，修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1 について最終稿をまとめる
第 8 回	教材の理解④：「第 3 章」「第 4 章」を読み，技術的問題や指導法を理解する
第 9 回	教材の理解⑤：「第 5 章」を読み，定着のための条件や整備を考える
第 10 回	教材の理解⑥：他の文献，関連する文献の探索と比較考察
第 11 回	草稿作成のために文献の記述，資料・データ評価を行い構造化する
第 12 回	レポート課題 2 について初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2 について推敲，修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2 について最終稿をまとめる
第 15 回	レポート 1・2 を見直し，生涯学習の理解（理論と実践）を深める